

豊田市長 太田 稔彦 様

提 言 書



令和5年12月25日

猿投地域会議

猿投地域会議委員名簿

50音順・敬称略

氏 名	ふりがな	自治区	備考
池田 利雄	いけだ としお	乙部ヶ丘第一	
磯谷 雅彦	いそがい まさひこ	亀首町	
梅村 寿	うめむら ひさし	乙部	
梅村 基	うめむら もとい	亀首町	
大澤 正利	おおさわ まさとし	乙部	
近藤 隆光	こんどう たかみつ	猿投	
近藤 宗行	こんどう むねゆき	亀首町	副会長
爾見 綾子	しかみ あやこ	加納町	
高橋 直子	たかはし なおこ	乙部ヶ丘第一	
田中 則夫	たなか のりお	加納町	
羽根田三枝子	はねだ みえこ	加納町	
林 昇司	はやし しょうじ	舞木町	
林 哲夫	はやし てつお	舞木町	会長
眞木 保	まき たもつ	猿投	
宮川 延孝	みやがわ のぶたか	本徳町	
森 篤史	もり あつし	舞木町	
森 眞治	もり しんじ	さなげ台	
森田 裕子	もりた ひろこ	さなげ台	
山田 和孝	やまだ かずたか	本徳町	

提言 農業を活かした観光交流・子育てのまちづくり

1 背景・課題

本地域では、農業が盛んで、特に桃は県下有数の生産量です。梨やスイカ、柿なども大変人気があります。加えて、市外、県外からも訪れる人が多い猿投山や猿投温泉など、自然や観光資源を多く有している地域でもあります。

しかし、観光客が立ち寄れるような場所が少なく、農産物を買って帰れるような場所もないため、この地域の農産物の魅力が伝わらず、観光資源を農業の発展や地域の活性化に活かしていません。そのため、観光客をターゲットにした地域振興が必要です。

さらに、新しく農産物（野菜や果実）作りをはじめた人（生きがい型農業者）たちは、作った農産物を利用できず、売り場もないことから、消費できずに余らせてしまい、廃棄することで、フードロスの問題にも繋がっている状況です。その結果モチベーションが下がり、農業をやめてしまう人もいます。

この状況が続くことを防ぐため、農業を長く続けていけるような環境づくり、やりがいの醸成が必要です。

また、自然や観光資源を多く有している一方で、地域に住むこどもが遊ぶ遊具等がある公園が少なく、安心して遊ばせる自然環境を活かした場所もないため、子育て世代の親はわざわざ遠くへ連れていかなければなりません。

そのため、親には子育てしやすい環境、交流の場、こどもには地域資源である農業や地域を学ぶ場が必要です。

以上のことから、猿投地域の魅力をさらに向上させ、地域内の住民も、地域外からの来訪者も一日中楽しむことのできるまちづくりと、農業の更なる発展のため、「農業を活かした観光交流・子育てのまちづくり」について提言します。

2 解決方針

これらの課題を解決するために、長期的には猿投地域の住民も来訪者も農業を起点に交流できる場所の創出（例えば、農業公園や道の駅など）をめざします。中期的には、その足掛かりとして、亀首町で

整備予定の「(仮) 水辺ふれあいプラザ 多目的広場」の活用を想定しています。まずは、集客が見込める猿投棒の手ふれあい広場等の地域施設で試行的にマルシェの開催を行う予定です。取組内容は以下のとおりです。

3 取組内容・期待する効果

(1) 農産物を買って帰ることができる場所づくり【マルシェの開催】

観光客や川遊びにきた人が、猿投の農産物などの特産物を新鮮で安く購入できる、観光交流の新たな場所づくりとしてマルシェを開催します。桃、梨、スイカなど猿投ブランドを多くの人に発信する場にもなるため、猿投地区の魅力の再発見につながります。販売する農産物については、近隣農家や新しく農産物作りを始めた人たちと協力をして用意することで、作った農作物の販売促進、農業者のモチベーション維持・向上、高齢者の生きがいづくりに寄与します。

(2) こどもの遊び場づくり

地域の人による竹細工教室などを実施することで、地域の人とこどもの交流の場とします。

また、こどもが集まって遊んだり、学びやすい環境になるように多目的広場周辺の整備を検討し、施設を含めて予定されている周辺アクセスの早期実現を望みます。

(3) 農業体験学習の実施

水辺ふれあいプラザの河川学習にあわせて、農業体験学習を実施します。農家と地域に住むこどもの交流の場になり、また農業への興味や郷土愛を育みます。

4 地域団体等の共働について

実行委員会を組織するなど、地域の各種団体とも連携し、取組内容の実現に向けて、実施していきます。

